

岩高祭で防災・減災啓発

～ 防災ブースでの実技・実演指導 ～

開催日時：令和元年9月4日（水） 10：00～14：30

場 所：愛知県立 岩倉総合高等学校

責任者：NPO 法人 愛知県防災士会

原田 友子（理事兼副広報委員長）

スタッフ：森 千代子、加藤 和久、石垣 辰夫、倉知 彰治、阿部 健二

参加者：84名（生徒・職員・保護者）

開催当日、午前8時30分ころから役割分担により車で集合した防災士達は、それぞれが機材を持ち込み、当高校から割り当てられた教室へと搬入しました。前日には、先生と生徒さんと森 千代子防災士が力を合わせ、机を並べ変えて陳列棚にし、非常食の試食用テーブルとイスを三卓ほど用意されたほか、不要な机やイスは教室の外に出して頂いていたお陰で、1時間ほどで教室は「防災ブース」へと早変わりをいたしました。

その他に、「防災ブース」への誘導用旗を校舎1階と3階と「防災ブース」の教室の前に立て準備万端整え、岩高祭が始まる午前10時を待つのみとなりました。

それでは、午前10時になりましたので、『皆様ようこそ、防災ブースへお越しくださいました。本日のご案内役の原田友子と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。』

今年は、「防災ブース」を、四つのコーナーに分けました。①応急救命の実技、②耐震器具、非常持ち出し袋（リュックの中身）・自宅に備える防災用品の展示（トイレ対策）、③ロープワークの実技、④間仕切り用の衝立に熊本地震等の被災地の様子の写



「防災ブース」への入り口



「防災・減災体験コーナー」の表示



応急救命コーナー等

真パネルを30枚ほど貼り出し、その奥に非常食試食コーナーを設けました。

『続きまして、各コーナーの内容と「防災ブース」を通じまして、感じたことをご説明します。』

【①応急救命コーナー】

2体の人形とAEDトレーナーを床に置き「心肺蘇生法」の実技を体験出来るコーナーにしました。

「あなたは119番！あなたはAED！」と周りに居る人へ大きな声で助けを求め、30回のリズムを連続3回、1分間に100から

120回の速さで、胸が5cm（小児の場合は、胸の厚さの1/3）沈むまで、しっかり胸骨

圧迫を繰り返し行い、AEDによるショック療法をガイダンスの音声に従って、ひたすら救急車が来るまで、し続けることを説明。併せて、意識が無く、呼吸や心臓が止まった症状の時に応急処置で人命を守ることができる感動的な説明をしました。

最初は、声の小さかった女子生徒さんも大きな声で助けを呼び掛けることが出来るようになりました。また、一部の生徒さんは、今年の夏休みを返上して、赤十字で講習を積んで、得意げに実践してくれた生徒さんもあり、熊本地震で若い人たちが率先して活躍されたという話を思い出し、「人が倒れていたら助けます！」と生徒さんから力強い言葉をもらい、教える側として頼もしくも、嬉しくも感じました。

【②耐震等展示コーナー】

地震の時の備えとして命を守るためには、阪神・淡路大震災の教訓に学んだ家具の下敷きにならないための耐震対策、家具の固定化と火災を防止するために振動でブレーカーが落ちる装置の取付けが必要になります。ホーム

センター等で購入できる器具を取付けた見本の展示とトイレ対策として簡易型塩化ビニール製ドラム缶トイレ（家の断水時、使用可能な方法のアドバイス）の展示。その他に、家での備蓄品と非常持ち出し袋（リュック）の中身の展示をしました。



胸骨圧迫を体験する生徒さん



耐震と家具の固定の説明



簡易トイレと凝固剤の説明

【③ ロープワークコーナー】

ロープワークの実技を始める前に「生存者が2階から飛び降りた」という痛ましい事例を振り返り、ロープがあったら、もっと安全に地上へ降り、命が助かったかも知れないことを話し、一本のロープを備えておくことの大切さを説明しながらロープワークの実技・体験をして頂くコーナーです。



ロープワークの説明と実技

【④ 非常食の試食コーナー】

お湯を入れて4分待つと美味しいラーメンの出来上がり。試食して頂きました生徒さん方には、5年保存で「1食 242 キロカロリー」と満足げな味に備蓄の大切さと必要性を実感して頂きました。

総体的に、このコーナーでは、家で安全に1週間は暮らせるように水と食料を備蓄し、トイレの対策も併せて考えて貰うことが出来ました。



男子生徒さんによる胸骨圧迫



非常食を試食する生徒さん



胸骨圧迫を体験される先生



熊本地震の写真パネルを見る生徒さん

以上で「防災ブース」の四つのコーナーの説明を終わらせて頂きます。今回の「防災ブース」を通じまして、強く感じたことは、生徒さんだけでなく、多くの先生方にもご参加頂き、ほんの少しでも NPO 法人 愛知県防災士会がお役に立てたのかなどの印象を受けました。

文責：原田 友子、写真：阿部 健二